

施策評価シート

施策番号【2-2】

評価年度	令和2年度	事業実施年度	令和元年度	施策主管次長名	深 津 栄 子	
施策番号	2-2	施策名	生涯にわたって健康に暮らせるようにしよう		総合計画掲載頁	90～97
主担当部名	福祉部					
関連課名	長寿介護課、保険年金課、健康推進課、教育行政課、スポーツ課					

1 総合計画の目標指標 PLAN & GOAL（中間値と最終目標値の確認）

取組分野1		地域医療	R5	R10
指標名	特定健康診査受診率 後期高齢者健康診査受診率		中間値	目標値
指標の定義	40歳から74歳までの国民健康保険被保険者を対象とした特定健康診査を受信した者の割合 75歳からの後期高齢者医療保険被保険者を対象とした健康診査を受信した者の割合		60% 40%	65% 45%
取組分野2		健康づくり	R5	R10
指標名	健康づくりに関する取り組みの市民満足度割合		中間値	目標値
指標の定義	「健康づくり」の取り組みに対する満足度割合(アンケート)		75%	80%
取組分野3		スポーツ	R5	R10
指標名	成人のスポーツ実施者の割合		中間値	目標値
指標の定義	週1回以上スポーツをする人の割合		56%	65%
取組分野4		生きがい・働きがい	R5	R10
指標名	生きがい・働きがいに関する取り組みの市民満足度割合		中間値	目標値
指標の定義	「生きがい・働きがい」の取り組みに対する満足度割合(アンケート)		79%	82%
取組分野5			R5	R10
指標名			中間値	目標値
指標の定義				

2 成果指標 DO & REPLAN（実績を計上し計画値を再設定）

指標①	取組分野1 地域医療							
	成果指標名	健診受診歴分析者数	単位	R1実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5目標
			人	8,310	8,400	8,800	9,200	9,500
	対象	健診受診対象者	指標設定の考え方	過去3年間の健診受診歴を分析し、受診勧奨対象者を抽出することで、対象者に対し効果的な受診勧奨を実施する。				
			把握方法	1年間に健診受診歴データを分析した数				

指標②	取組分野2 健康づくり							
	成果指標名	健康マイレージ事業参加者数	単位	R1実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5目標
			人	88	90	95	100	105
	対象	市民	指標設定の考え方	市民が自主的に健康づくりに取り組むための動機づけとするため、健康マイレージ事業を実施する。				
			把握方法	1年間の健康マイレージチャレンジシート達成者数(50ポイント貯めて保健センターへ提出)				

指標③	取組分野3 スポーツ							
	成果指標名	スポーツ施設の年間利用者数	単位	R1実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5目標
			人	349,948	385,000	389,000	393,000	397,000
	対象	利用者	指標設定の考え方	市民が気軽にスポーツに親しむ機会を提供するため、スポーツ施設・設備の整備を進める。				
			把握方法	1年間の利用状況を施設別に把握				

指標④	取組分野4 生きがい・働きがい							
	成果指標名	シルバー人材センターが年間契約している事業所数	単位	R1実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5目標
			事業所	47	53	55	57	60
	対象	事業所等	指標設定の考え方	働く意欲のある高齢者に就労の場を提供するシルバー人材センターへの支援を行う。				
			把握方法	年度末現在の年間契約している事業所数をシルバー人材センターに確認				

指標⑤								
	成果指標名		単位	R1実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5目標
	対象		指標設定の考え方					
			把握方法					

3 施策の評価 ANALYSE & CHECK(分析・評価)

施策の分析（現状の確認と近隣調査）		
施策の現状	・特定健診受診率、後期高齢者健診受診率は低く、生活習慣病重症化予防事業や受診勧奨等の各種保険事業を展開することにより市民の健康保持と医療費の適正化に努めている。 ・市民のスポーツ実施率は国の「第2期スポーツ基本計画」で示された実施率と比較して大きく下回っている。 ・シルバー人材センターの会員数を伸ばすために、高齢者の希望に応じた幅広い職種の開拓を行っているが会員数は減少傾向にある。	
	成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民 健康寿命の延伸を図るため、日ごろから健康づくりに努め、進んで健(検)診を受診し、病気予防・療養・治療に専念する。スポーツの多様な効果を認識し、スポーツを生活の一部とすることで人生を豊かにし、生活の質の向上と健康でゆとりのある生活を送るようにする。多くの高齢者が積極的に参加できる多様な地域活動を立ち上げ、地域で生きがいや働きがいをもって、健康に暮らせる環境づくりに努める。 行政 ・健康増進の機会、早期発見のため健(検)診の普及を図り、健(検)診費を負担する。 ・年代に応じたスポーツライフを充実させる施設の整備に努め、スポーツイベント・教室を開催し、スポーツ活動のきっかけの提供と仲間づくり(コミュニティ)ができる組織・団体の育成を図る。 ・高齢者の希望に応じた幅広い職種を開拓するなど、シルバー人材センターの事業の充実を図る。
近隣市町との比較		
・特定健診法定報告によると、平成30年度受診率は37.9%で県内45位、近隣市との比較で岡崎市が47.6%と高く、同一医療圏の豊田市は36.9%となっている。		

施策の評価（活動の振り返りと課題の明確化）	
平成30年度以前の活動	・集団健診の実施や健診期間の延長や「健康マイレージ事業」を実施。 ・特定健診の受診勧奨(分析を行わず対象者を抽出する方法)の実施。 ・スポーツ教室の開催や学校施設スポーツ開放事業の拡充、スポーツ協会加盟競技団体等各スポーツ関連団体への支援・育成を図るほか、地域の中で気軽にスポーツに親しむことができるように地域スポーツクラブに対して継続的な支援を行っている。 ・年度当初の、市工業経済会役員会にて、シルバーの活動内容の説明及び仕事(発注)依頼を行い、募集チラシを作成し、地域事業所へポスティングによる案内を行う。
令和元年度の活動内容	・特定健診受診について、対象者を受診履歴から分析し受診動向のタイプ別に仕分けする方法による受診勧奨を実施する。 ・スポーツ活動の支援として、スポーツ競技団体への支援やスポーツイベントの開催、健康づくりとスポーツ推進のため、総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会等と連携しスポーツ推進と競技力向上を目指し指導者の指導力向上を図った。 ・工業経済会への声掛けは継続的に行之い、現受託事業所への訪問回数を増やし、情報収集を行うことで就業機会の確保に努めた。
積み残し課題等	・後期高齢者健診について、対象者を受診履歴から分析し、受診動向のタイプ別に仕分けする方法による受診勧奨方法実施の検討を行う。 ・実施率が減少傾向にあり、将来に向けスポーツ施設の環境改善とともに、市民ニーズに基づいた総合型スポーツクラブの更なる展開などスポーツを行うきっかけづくりが必要である。 ・契約事業数を伸ばす努力も行っているが、定年年齢の引き上げが大きな要因となり、会員数については、減少傾向である。

4 活動計画 ACTION & PLAN(目標を達成するために起こす行動)

令和2年度以降の施策目標達成に向けての取組の方向性	・健康マイレージ事業の周知方法として、無関心層に向けた普及啓発の働きかけを積極的に進める。 ・高齢者の医療、健康診査、介護情報等を一括把握し、企画・調整・分析を行い、介護予防・フレイル対策及び生活習慣病等の予防を一体的に行う仕組み「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施」を構築する。 ・マイナナンバーカード及びオンライン資格確認の仕組みを利用し、保健医療データの分析の向上及び健康管理・医療の質の向上を図る。 ・市民が自主的に自身の適性・健康状態に応じてスポーツを継続的に行うことができるように、引き続きスポーツ団体やスポーツ推進委員会、地区スポーツ委員などと相互に連携し、スポーツ振興に取り組み、あらゆる世代に対して生涯スポーツを通した健康づくりの機会を広く提供を図る。 ・高齢者の働く場の確保のため、事業所間のつながりを活用し、新たな事業所を開拓(直接担当者と会話のできる体制づくり)
施策目標達成に向けての令和2年度の活動内容	・スマートフォン等の専用アプリを活用した「健康マイレージアプリ」のを導入し、幅広い世代への利用拡大を図る。 ・高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施に向け、令和3年度事業開始に向けた体制の構築。 ・糖尿病について重症化のおそれのある対象者に対しての保健指導。 ・オンライン資格確認の仕組みの導入に向け、税総合システムの改修。 ・引き続きスポーツ団体やスポーツ推進委員会、地区スポーツ委員などと相互に連携し、スポーツ振興に取り組み、あらゆる世代に対して生涯スポーツを通した健康づくりの機会を広く提供。 ・市民が安全、快適に利用できるスポーツ環境の整備を図るためスポーツ施設再整備計画策定。 ・就業希望会員の希望職種に沿った企業への訪問アプローチの実施 ・事業所が希望する職種における会員の開拓